

講義コード	21K0137501	授業形態	講義	事前登録の有無	なし	担当者氏名	松尾 忠直、伊藤 善夫、大井 達雄、 白川 清美、高部 勲、辻村 雅子、			開講期	1 期
科目名	データサイエンスと価値創造										
履修前提条件											
授業の目的	データサイエンスの基礎知識をある程度身につけた上で、実社会でのデータサイエンスの実装について学ぶ。ここでは、データサイエンスが、ビジネス、社会、スポーツ、観光といった分野でどのように使われ、また、どのような応用が求められており、それをどのように提供していけばいいのかを考えることを目的としている。実社会で、データサイエンスを用いて価値創造をするには何が求められているのかを実感させる講義とする。										
到達目標	データサイエンスを用いた価値創造の方法・可能性について十分に理解できる。 自らの関心のある分野を選び、それに関してさらに勉強を深めることができる。										
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、授業で学んだ要点を復習し60時間以上の授業外学修を行うこと。										
授業計画	【第1回】価値創造の基礎 1：数理・情報的なデータ処理・分析（平田先生） 【第2回】価値創造の基礎 2：経済・ビジネス系の価値創造（辻村先生） 【第3回】データサイエンスと社会 1：社会・GIS（松尾先生） 【第4回】データサイエンスと社会 2：自然（成塚先生） 【第5回】データサイエンスと社会 3：観光（大井先生） 【第6回】データサイエンスとビジネス 1：マーケティング（伊藤先生） 【第7回】データサイエンスとビジネス 2：サービス（白川先生） 【第8回】データサイエンスとビジネス 3：スポーツ（永田先生） 【第9回】データサイエンスと政策 1：統計（高部先生） 【第10回】データサイエンスと政策 2：金融（辻村先生） 【第11回】データサイエンスと政策 3：EBPM（西崎先生） 【第12回】データサイエンスと価値創造：（講演依頼予定） 【第13回】総括（データサイエンティストが作る未来）										
成績評価の方法	授業中に出す課題（70％）と授業への取り組み（30％）で評価する。 成績評価にはルーブリックを用いる。										
フィードバックの内容	課題に対する講評を授業内で行う。										
授業実施形態について	【メディア授業】基本的にオンライン形式で実施する。										
教科書											
書籍名			著者			出版者		出版年		ISBN/ISSN	
『授業時に資料を配付する。』											
指定図書											
書籍名			著者			出版者		出版年		ISBN/ISSN	
『データサイエンス設計マニュアル』			スティーブン・S・スキーナオライ					2020		9784873118918	
参考書											
書籍名			著者			出版者		出版年		ISBN/ISSN	
『ハッカーと画家』			ポール・グレアム			オーム社		2005		9784274065972	
教員からのお知らせ	授業には積極的に参加すること。										
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は学部学科に定めるオフィスアワーにて対応します。										
アクティブ・ラーニングの内容	意見共有										
実践的な教育内容											
その他	授業担当教員へはTeamsのチャット、大学の生涯メールアドレスを利用し連絡すること。										